健やかな子育てをするために

主任児童委員
古川　ゆかり

子どもたちが犠牲となるニュースを耳にする度に、どうして？と胸が痛みます。誰も気付かなかったのでしょうか。子どもはサインを出していなかったのでしょうか。県内の児童相談所に寄せられる児童虐待相談件数は年々増加し、平成22年度には3,449件と過去最高を示しました。現在、埼玉県では、見守り体制整備促進事業を進めています。それは、児童にかかわる機会の多い地域の団体が、それぞれの活動の中で、虐待を受けたと思われる児童を発見した場合に、ためらわず専門機関に通告できる仕組みを整備しようとするものです。虐待は加害者も被害者だと言われます。悲しい事件を起こさないために、早期発見、早期対応が大切です。町内でも、中学校区に1名ずつ配置されている3名の主任児童委員が、関係団体の皆さんにご協力をお願いしているところです。

昨年のある研修で、ご住職の講和をお聞きする機会がありました。ご住職は、ご自身の失敗談を話され、それは校長先生が卒業式を忘れるほどの大きな失敗だったそうです。途方にくれていたご住職を支えたのは、奥さんの励ましの言葉とお子さんの寝顔だったそうです。家族の深い絆を感じたとのことでした。ご住職は、子育てのお手本はないが、自身のものさしを持ち、他人の幸福を願い、感謝の心を忘れないように子どもに諭していけば、心豊かな子育てができるのではないでしょうかと話してくれました。親御さんも無理せず、子どもの成長とともに親年齢を育んでいけばよいそうです。これからも、子どもたちの笑顔と笑い声が響く寄居町でありますように、地域の皆さんのご理解とご協力をよろしくお願いします。

ケータイを持たせる前に

寄居警察署
少年補導員
持田　奈穂子

携帯電話が普及し、便利な世の中になりました。私が子どものころには想像もつかなかった世界になっているように思います。携帯電話が普及したことで、今までには無かった犯罪が発生しています。「携帯電話が変わったよ」という振り込め詐欺。「メール画面に夢中」になっていて痴漢被害。「電話に夢中」になっていて交通事故。保護者の知らないところに、保護者の知らない友達がいる中高生。ケータイを持たせている家庭は今一度、持たせていない家庭は本当に必要かどうか「親子で」考えて欲しいと思います。保護者は、ゲーム機を買い与えるような感覚でケータイを与えないためにも、親子間で使い方について話し合いを行ってください。

○充電はどこでするのか
○食事のときには使わない
○使用時間は何時まで等

ファミリーレストランのテーブルでは、親子で夢中になってケータイをいじくっている光景を見かけます。大人の世界では携帯電話ですが、子どもたちはケータイと言います。同じものを指しているにもかかわらず名称が違うのは、やはり文化が違っているからかもしれません。放送42年の長寿番組「水戸黄門」が終了となり、まさに時代の変遷を感じずにはいられません。補導した少年に「カンゼンチョウアク」という四字熟語を書かせてみたところ「完全チョー悪」、その意味は「すごく悪いこと」と答え思わず「うまい！」と言ってしまいました。正解は「勧善懲悪」。意味は「よい行いを勧め、悪人を懲らしめること」。ケータイを持たせる前に、その使い方を知り善悪の判断がつかなければ与えられないツールだと認識いただき、子育ての意識を一致していただきたいと思います。

～子どもたちの健全育成のために～ ケータイ・インターネットのことを知りましょう！

ケータイ・インターネットとは

ケータイは立派なインターネットの端末機器です。本体は小さくても、世界中のネットワークにつながっています。

ケータイ・インターネットで世界に広がる可能性

世界中で、日本ほどケータイ・インターネットでたくさんのことができる国はありません。実は、日本が世界で最もケータイ文化が進んでいると言われています。日記やブログを書いて自分の気持ちや考えを表現したり、「音楽」「写真」「動画」「小説」など自分の作品を載せたりと、ケータイでさまざまなことができます。ケータイから発信した内容には、ケータイだけではなくパソコンから見る（読む、聞く）ことができるものもたくさんあります。そのため、日本ほどケータイ・インターネットが進んでいない国からでも簡単にアクセスすることができます。ケータイ・インターネットを上手に活用すれば、世界の人々とコミュニケーションがとれるという大きな可能性も開けます。

よい人も悪い人も見ているケータイ・インターネット

インターネットのプロフィール、ブログ、掲示板などに書き込みをすると、想像をはるかに超える大勢の人がその内容を見ます。インターネットの向こう側にいる人たちの中には、よい人もいれば悪い人もいます。常に大勢の人に見られているということを忘れないようにしましょう。

便利で楽しいけれど危険もたくさん！

ケータイには、電話やメールだけでなくカメラ、テレビ、音楽プレイヤーなどのさまざまな機能があります。さらに、インターネットにつなげば動画を見たり、小説を読んだり、知りたい情報を得たりすることができます。ケータイは驚くほど便利なツールになりました。ですが、インターネットに接続できるということは、インターネットの世界に潜んでいる危険に出会ってしまう可能性もあります。インターネットの向こう側にはさまざまな人がいます。自分の身を守るためにも、よく考えながら利用しましょう。

自分で発信した情報の責任は自分にあります

インターネットは不特定多数の人たちが利用する「公共のメディア」です。テレビやラジオ、新聞や雑誌と同じメディアです。ニュースキャスターやコメンテーター、記者と同様、一つひとつの発言に情報発信者としての責任が伴います。それは友達の日記へのコメントであっても、例外ではありません。友達や特定の知人に向けて話している感覚で気軽に書き込みがちですが、よく考えればたくさんの人が読んでいることに気付きます。インターネットに書き込むときは、言葉の一つひとつに発信者としての責任があることを自覚しましょう。

一度公開した情報を「なかったこと」にはできません

インターネット上に掲載されている情報は簡単にコピーができます。コピーした情報をあちこちに転載されると、削除も取り戻すこともできなくなってしまいます。一度インターネット上に載せてしまった情報（写真も含む）は、載せる前の「誰も知らない状態」には二度と戻せないのです。名前や住所、ケータイ番号やメールアドレスなどの個人情報は、不用意に書き込まないようにしましょう。

被害者にも加害者にもならないために

何も考えずにインターネットを利用し続けていると、自分が被害を受けたり、誰かに被害を与えたりすることもありえます。また、知識や想像力が足りなかったために、法律を犯してしまう危険性もあります。正しい知識を身に付け、自分のやろうとしていることを考えながら情報発信をするよう心がけましょう。

ケータイ利用のためのルール作りを

「メールアドレスくらいなら」「ちょっと会うだけなら」そう思うかもしれません。しかし、知らない人に連絡先を教えたり、会ったりすることで、事件に巻き込まれ、深い傷を負ってしまうこともあります。そうならないためにも、家族でケータイ利用のためのルールを作っておきましょう。

個人情報を公開しない

個人情報（電話番号・メールアドレス等）を公開してしまうと、知らないところで悪用され、トラブルに巻き込まれる可能性が非常に高くなります。不特定多数の人が見る可能性があるインターネット上では、個人情報を公開しないようにしましょう。また、他人の個人情報を書き込むことも、絶対にしないようにしましょう。

誹謗（ひぼう）中傷しない

軽い気持ちで書き込んだことも、非難や根拠のない悪口は、相手の心をひどく傷つけます。書き込む前に自分が同じことをされたらどんな気持ちになるか考えてみましょう。また、みんなの反応を見て楽しむために、わざと悪口を書き込む人もいます。もし自分が誹謗中傷を受けたとしても、無視しましょう。

著作権を侵害しない

他人の文章（本、雑誌の記事、歌の歌詞など）をそのまま転載すること、CDジャケットやイラスト、キャラクターなどの画像、絵画、写真を掲載することは著作権の侵害にあたります。くれぐれも注意しましょう。